

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 38 号

2008年6月15日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575)24-2211

岐阜済美学院に赴任して

中部学院大学 宗教総主事 笠井恵二

岐阜済美学院に宗教総主事という大役を仰せつかってこの地に参りましてから、早や2ヶ月が過ぎました。永いこと京都で生活しておりまして、岐阜という土地については、東京・京都を往復するとき岐阜羽島駅を素早く通過するばかりで、どのような土地でどのような歴史があるのかについても殆ど知識がなく、僅かに織田信長が建てた城があるらしいという程度の知識しかありませんでした。しかしこちらに来て、いろいろな方々にお目にかかり、いろいろとお話を聞くうちに、この土地には豊かな歴史があることが分かり、これから調べていくことに大きな興味がわきつつあります。

私は両親が青山学院のプロテスタント・メソジスト系の教会の牧師だったので、幼いときから教会の中で育ち成長しました。自然の成り行きとして青山学院神学科で学び、大学院修士課程を修了して日本キリスト教団大津教会の伝道師になりました。しかし、もう少し勉強したくなりまして京都大学の大学院で哲学を学び、そこを修了して日本キリスト教団土佐教会で副牧師を3年間やってから、私の最も尊敬するフリッツ・ブーリ博士のおられるスイスのバーゼル大学に留学しました。

そこでの私の研究のテーマは、神道・仏教の盛んな日本人としての私にとってのキリスト教を信ずることの意味でした。幸いこのキリスト教と諸宗教の問題に関して、アルベルト・シュバイツァーとパウエル・テイリッヒという2人の神学者が独創的な見解を発表しておりまして、とくにブーリ先生はシュバイツァーの神学を継承する人々の中の第一人者だったので、非常に親密な指導を仰ぐこ

とことができました。

5年半にわたるバーゼルでの学びをおえて帰国し、奈良で2年間牧師をやっていたところ、京都産業大学からの招きがありまして、そこで28年間、ドイツ語、哲学、倫理学、キリスト教学、宗教学などを教えました。また非常勤講師として平安女学院、同志社女子大学、神戸女学院大学、関西大学、同志社大学、関西学院大学など、いろいろな大学でキリスト教、あるいは宗教学というような講義をもちました。

宗教学という講座をもったときには、先ず仏教についてやりまして、その後、イスラム教、ユダヤ教、ヒンズー教、神道、道教などについての概論をやりました。産業大学の最後の年には現在生きている諸宗教のルーツとして5000年前からのエジプト、メソポタミア、ギリシア、ローマ、ゲルマンの神話などについても講義をし、宗教というもののはどこまでも面白いものだとの思いを深めております。

だからこの岐阜の地に参りまして、勿論キリストの福音を少しでも多くの学生に知ってもらいたいということが一番の願いではありますが、そのためにも、この日本人の宗教性をより深く理解するために神道についてもっと深く知りたいと思っています。

また、もとは外来の宗教であった仏教がこれほど日本人の心に根付いたそのことについても研究を深めていきたいと思っています。

そのためにも、この岐阜の土地はよい場所だと考えていますので、皆様方のよき交わり、よきご指導をお願い申し上げます。

2008年5月19日 チャペルアワー奨励より

「あなたが必要だから」使徒3：1～10

日本キリスト教団坂下教会 牧師 木下 忠 司



ドキュメンタリー作家で、映画監督でもある森達也さんという方がいます。現代社会の腐敗に対して鋭い批判を繰り返すことでも、よく知られている方です。その森さんがこんなことを言っていました。

「宗教を必要とするのは人間だけだ。なぜならあらゆる生き物の中で、人間だけが、自分がいつかは死んで消滅することを知ってしまったからだ。これは怖い。いつかは絶対に消えるのだ。だからこそ人は、死への恐怖を緩和する装置として宗教を必要とした。遺伝子に刷り込まれた。世界には様々な宗教があるが、天国や極楽浄土、輪廻転生など、死後の世界を担保する機能についてはほぼ共通している。」

森さんの見解は、宗教に対してかなりの的を得たものだと思います。人が信仰や信心に関心を持つのは、様々な動機がありますが、突き詰めれば、ここに至るように思います。死への恐怖の克服です。死という絶対に間違いなくやってくる出来事、そして死後のことはわからないということ。人間にとってこれほど恐ろしいことはないと思います。だから死への恐怖を緩和するために、宗教という装置をつくった。よくわかります。

したがって、皮肉な言い方をすれば、宗教を広めるためには、森さんが言われるように死後の世界を担保にすること。つまり、信仰を持てば、死後の命が保障されますよということを魅力的に伝えることだと思います。逆に、信じなければ地獄行きですよと脅すのです。カルト的な宗教団体は、このツボをうまく押さえます。だから多くの人たちがそのような宗教団体に流れていくのです。

しかし、イエスも、また今日のペトロとヨハネも、死後の世界が保障されることを伝えたり、脅したりといったことはしませんでした。では何をしたのでしょうか。それが今日の話です。ペトロとヨハネの二人の弟子が、エルサレムの神殿にやって来ます。するとちょうどそこに、生まれつき足の不自由な男の人が運ばれてきました。この男の目的は、神殿の境内に入る人に物乞いをするのでした。

彼にとって最も大切なことは、いかに多くの施しを受けるか。俗っぽくいえば、いかに多くの日銭を稼ぐかです。そのためには、できる限り惨めそうに振る舞い、みんなの同情を買うことです。また、彼からお札金をもらっていたはずの運んでくる者たちにしてみれば、この男の足が治ることがあってはならないのです。このままずっと足が不自由のままであって欲しいのです。この男も、惨めで悔しくとも、こんな生き方しかできないと諦めていたと思うのです。

ペトロとヨハネが彼のそばを通ります。ペトロが言います。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」すると、たちまち、男は立ち上がって歩き出したとあるのです。

ところでペトロは、ほんとうに金銀を持っていなかったのでしょうか。そんなはずはありません。神殿参拝には献げ物用のお金は必要不可欠です。ということは、ペトロは彼にお金を恵んであげようとは考えていないのです。

なぜ、ペトロは彼の期待に応えないのでしょうか。否、むしろ応えたくなかったと思うのです。なぜなら、この男が人生を投げていること。周囲に利用されていること。それらに慣れきって、すっかり人としての尊厳を捨て去ってしまっていたからだと思います。もしペトロがお金を差し出してそこを通り過ぎたならば、この男の人生はこの先も変わらないのです。ペトロはそのことに気づいたと思います。

ペトロは、お金を差し出す代わりに別のものを彼に与えようとします。それが次の言葉だったのです。「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

これはどのような意味なのでしょう。わたしは思うのですが、ペトロは、かつて自分がイエスと出会い、ついていったときのことを思い出したのではないかと思うのです。ペトロがこの男のことを「じっと見つめた」という件にはそのことを感じます。また、「わたしを見なさい」といった言葉、そこには、かつての自分をこの男に重ね合わせた後で、今の自分は、あの時とは違う自分なのだという意味が込められていたと思ったのです。

ペトロをはじめ弟子たちは、皆、イエスにこれだと思われて声を掛けられた者たちでした。それは彼らが優秀であったからではありません。むしろその逆です。うだつが上がらない者たちだったのです。しかしイエスが人を招く理由は、ただ一つです。それは、その人が必要だからです。

キリストの名によって立ち上がり、歩きなさいというこの呼びかけがもっている意味。それは、

あなたはこの世にとって必要な人間何だ。人生を投げ出すことなどしないでいいんだ。価値ある者なんだ。自信を持て。誇りを持ってということではないでしょうか。

現代社会、特に企業は非正規雇用者ばかりを使って経営を進めたいようです。彼らは使い捨てにできる存在です。ほんとうの意味であなたが必要ななどとは思っていません。代わりはいくらでもいる。だから会社の命令に逆らうなど高圧的に迫ります。だから従わざるを得ません。たとえどんなに不条理でも。そうして人は自尊心を失い、精神的に病み、崩れていくのです。このような傾向は企業だけでなく、多くの分野に拡がりつつあります。

そのような中、今日の話は、あなたは必要なのです。価値ある者なのです。誇りを持っていいのです。胸を張って生きていいのです。後ろ指をさされる必要はないのです。馬鹿にされることはないのです。起き上がり、歩きなさい。そう声を掛けていく者たちが、この世界に必ずいてくれる。またわたしたち自身が人に対してそうであるようにと促されている物語。そう言えるのではないのでしょうか。

神よ。今日与えられた聖書の物語を通して、それぞれが世の中について、人生について、考える時を持つことができますよう時を与えてください。中部学院でもたれるすべての学びの上に、生徒・教職・スタッフの上に善力をお与えください。

岐阜済美学院年題聖句（2007～2008年度）

「憐れみ深い人々は、幸いである。その人たちは憐れみを受ける。」

（新約聖書（新共同訳）：マタイによる福音書5章：7節）

＜2008年度 チャペルアワー前期予定表＞

中部学院大学・中部学院大学短期大学部 宗教委員会

関キャンパス

実施日	曜日	役 職	担当者氏名	所 属	教会名	
5月1日	木曜日	牧 師	西 堀 則 男	日本キリスト改革派教会	関教会	
8日	木曜日	牧 師	河 合 昇			
12日	月曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学		
15日	木曜日	事務主任	西 堀 元	中部学院大学		
19日	月曜日	牧 師	木 下 忠 司	日本基督教団	坂下教会	
22日	木曜日	事務員	益 田 明	大学事務局		
26日	月曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部		
29日	木曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学		
6月2日	月曜日	短大学長	片 桐 多恵子	中部学院大学短期大学部		
5日	木曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部		
9日	月曜日	牧 師	森 田 香 代	日本基督教団	名古屋中央教会	
12日	木曜日	教 授	水 谷 俊 夫	中部学院大学		
16日	月曜日	牧 師	小田部 正 一	日本基督教団	中濃教会	
19日	木曜日	牧 師	金 仁 果	在日大韓基督教	岐阜教会	
23日	月曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学		
26日	木曜日	講 師	ダーリンブル親子	中部学院大学		
30日	月曜日	宗教講演会：11:00～12:30（11301教室）講師 笠井恵二				
7月3日	木曜日	牧 師	日 高 伴 子	日本基督教団	蘇原教会	
7日	月曜日	牧 師	小 峯 明	日本キリスト改革派教会	岐阜加納教会	
10日	木曜日	准 教 授	ハワード・ケン・ヒガ	中部学院大学		
14日	月曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学		
17日	木曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部		
21日	月曜日	課長補佐	菊 池 真	中部学院大学		
24日	木曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学		

各務原キャンパス

実施日	曜日	役 職	担当者氏名	所 属	教会名
5月1日	木曜日	牧 師	石 東 岳 士	日本基督教会	大垣荒尾教会
8日	木曜日	牧 師	中 根 汎 信	日本キリスト改革派教会	那加教会
15日	木曜日	課長補佐	宇佐美 敏 雄	大学事務局総務課	
22日	木曜日	牧 師	野 口 哲 哉	日本バプテスト連盟	岐阜キリスト教会
29日	木曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部	
6月5日	木曜日	宗教総主事	笠 井 恵 二	中部学院大学	
12日	木曜日	牧 師	木 下 忠 司	日本基督教団	坂下教会
19日	木曜日	牧 師	須 藤 茂 明	日本基督教団	華陽教会
26日	木曜日	総務課長	桐 山 潤	大学事務局総務課	
7月3日	木曜日	牧 師	宗 像 亮 二	日本基督教団	各務原教会
10日	木曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部	
17日	木曜日	牧 師	兼 松 一 二	友愛チャペル	友愛キリスト教会
24日	木曜日	宗教主事	志 村 真	中部学院大学短期大学部	

〈6頁からの続き〉

そして彼がなぜ30才からと言ったのか。それについては彼は理由を明らかにしてはいないが、当然考えられることは、彼が人生の道しるべとするイエスが、30才までは自分を成長させるために使い、それ以後は人々に神の道を示すために生き抜いたということにあったということである。

22才でシュトラースブルグ大学を卒業した彼は、聖ニコライ教会の副牧師をしながら、早くも「直接的な奉仕」を始めようとした。先ず、不幸にして道を誤って刑務所に入り、そこから出所してきた人々に新しい仕事や住まいを探してやろうと努力するが、ほとんど徒労に終わってしまう。次に孤児を引き取って世話をしようとして孤児院に行くと申し出るが、これも断わられてしまう。

このような試行錯誤をしながらも、彼は24才のときカント哲学の研究で哲学博士となり、25才のときは聖餐論の研究で神学博士となり、30才のときにはヨハン・セバスチャン・バッハのオルガン曲に関する画期的な研究書を発表する。

彼が30才になったある日、外出先から帰宅した彼の机の上に、誰かが置いていった薄いパンフレットがあった。そこには、アフリカで今、医師が求められているとあった。これを見た瞬間、彼の生涯の方向が決定した。これこそが、自分に与えられた道であるとの確信が与えられたのである。

直ちに次の学期に、それまで講師として教えていたシュトラースブルグ大学の医学部に入学し、午前中は講師として神学部で学生に教え、午後は医学部に走って行って若い学生と共に医学を学ぶという6年間のハードな生活が始まった。6年後の彼の医学博士論文は「イエスー精神医学的考察ー」というものだった。当時、精神医学の分野で数名の人が、聖書においてイエスがいろいろな事をしたと書かれているのは、イエスが精神に異常をきたしていたからであるということを中心として主張していた。これに対して彼は、イエスは決して精神を病んでいたのではなく、当時の終末的な世界観の中で、情熱的に神の愛に生き抜いていたのであると論証したわけである。

こうして彼は、37才のとき、彼の夢を理解して看護師の資格を取ったヘレーネと結婚し、38才のときから赤道アフリカのランバレネに行き、その後時々帰国しつつも90才まで現地にとどまり、アフリカの黒人たちのために医療活動を続けたのである。

ゴスペルアワー

M4U

2002年、RADIO-iの人気番組i's Partyの出演をきっかけにゴスペルユニットを結成。その後、同番組に一年間レギュラー出演。現在は、リーダーの伊藤美里、作曲・アレンジ・キーボード担当の佐藤美香を中心とし庭瀬寿美子・瀬川史子のメンバー構成となっている。他にも、牧師やミュージシャンなど多くの人々のサポートを受けつつ、教会等を中心にライブ活動を行っている。また、メンバーのそれぞれがクリスチャンであり、各教会の賛美リードや、ゴスペルクワイアのソリスト・指導者として幅広く活躍している。



2008年度 宗教講演会
**「アルベルト・シュバイツァーの
 生涯と思想の現代的意義」**

中部学院大学宗教総主事 笠井恵二 先生



日 時：6月30日(月)
 11:00～11:30 ゴスペルアワー
 11:30～12:30 講 演
 (第2時限の講義は行いません。)

会 場：11301教室 (11号館3F)

講師プロフィール

1941年生 青山学院大学大学院文学研究科修了(神学修士)、
 京都大学大学院文学研究科修了(文学修士)、スイス・バー
 ゼル大学神学科修了(神学博士)

1969年4月から1980年3月まで日本基督教団土佐教会、大
 和キリスト教会にて奉職、1980年4月から2008年3月まで
 京都産業大学にて教鞭をとる。専門研究分野は哲学、倫理
 学、宗教学、著書に「シュバイツァー —その生涯と思想—」
 他多数。

6月30日の宗教講演会において、私がもっとも尊敬するアルベルト・シュバイツァーという人の生涯と思想を紹介したい。彼は1875年に今のフランス・エルザス地方のギュンスバッハという村で牧師の長男として生まれた。両親の愛に包まれてすくすくと成長した彼は、5才のときからピアノを習いはじめ、10才の頃には教会の礼拝で奏樂するほどの腕前になるが、彼は常に自分より弱い存在に対してやさしい心を向ける少年だった。18才からシュトラースブルグ大学に入学し、神学と哲学を勉強し、またパイプオルガンとバッハの音楽についても技巧と知識を深めていく。

この彼が21才の初夏のある朝、ベッドの中で小鳥の囀りを聞きながら自分の幸せをしみじみと考え、一つの重大な決心をする。それは、自分は30才までは自分を成長させるために自分の好きな哲学、神学、そして音楽に打ち込むことは許されるだろう。しかし、30才からは「人間への直接的な奉仕」をしなければならないということだった。彼の偉大さは、この21才のときの決心を、90才でこの世を去るまで妥協することなく最後まで貫いたことである。そして、この「直接的」なということにも大きな意味がある。後に世界的な学者としての業績をあげ、またオルガン演奏家としても世界的な実力を持っていた彼のような人が、30才でその栄光の全てを捨てて、アフリカの恵まれない人々のための医者となったのである。考えようによっては、間接的に、金銭的に援助することなどいくらでも出来たのだが、彼はそうはしなかった。彼はあくまでも、自分が「直接的に」奉仕する道を選んだのである。

〈5頁に続く〉